

シートベルト着用率調査

	調査日	区分	乗車人数 (人)	着用者 (人)	着用率 (%)	順位/県内
1回目	6月27日	運転席	426	404	94.8	3
		助手席	79	67	84.8	8
2回目	7月24日	運転席	406	382	94.1	7
		助手席	81	64	79.0	18
3回目	8月25日	運転席	442	413	93.4	—
		助手席	97	88	90.7	—

○調査場所：役場分庁舎前 午後3時30分～午後4時30分

特集

シートベルト

着用率100%を目指して!!

体も心の緩みもベルトで締める

人の力では

子どもを衝撃からは守れない

ここ数年やっとシートベルトの着用が習慣付けられてきたように思います。しかし、100%ではありません。平成17年の調査で、山梨県の着用率は90.1%でした。また、交通事故で死亡した人の着用率が50.0%であった事を考えると、自分や大切な人の命を守るのにどのくらいシートベルトが大切なかが分かります。

今年、南部町でもシートベルト着用率調査を3日間にわたり実施し、上表のような結果になりました。この結果が良いのか？悪いのか？それは分かりませんが、命をより高い確率で守るのであれば、100%でなければいけません。しかも、無防備な助手席の同乗者の着用率がかなり低い結果となっています。後部座席になればその割合はさらに低くなります。また調査中、特に気がつく点は、子供の着用率が低かったことです。自動車の接触・衝突事故は想像以上に大きな衝撃です。大人がいくら頑張っても衝撃から子供を守ることは出来ません。シートベルト同様、子供の成長にあったチャイルドシートの着用も徹底していきましょう。

交通指導員から

「シートベルトの着用率が良くなっている」と言っても100%ではなく。たとえ100%でも「死亡事故が0になる」訳ではありません。しかし、死亡につながる事故が減少することは間違いありません。ハンドルを握る以上、ルールは必ず守り、思いやりの持った交通安全を常に心掛けましょう。母でもある交通指導員からのお願いです。

